

平成25年度関西支部定時総会

（6月5日（水）午前11～12時
大阪・新阪急ホテル）



最初に、片山幹雄 支部長（シャープ（株）会長）より挨拶を行いました。

「政権交代後の円安・株高で明るさが見えている。TPP への参加表明もあり、事業環境はよい方向に向いて来た。欧州は落ち込みが続き、新興国に減速感があるものの、米国は住宅着工が回復に向かい、シェールガスへの期待も大きく、元気が出て来ている。円安の追い風が吹く中、来年のソチ五輪や W 杯も業界が活気づききっかけとなるだろう。関西ではグランフロントやハルカスのオープンが続き、今年はチャンスの年と感じている。当支部としては関係各機関と連携し、地域経済の振興と業界の発展に向けた取組みを強化すると共に、新規ビジネス創出に向けた情報提供や関係団体への働きかけを行い、会員の方々に喜んでいただける活動を強化して行く。」

続いて、JEITA 高田範雄 理事より業界の概況と5月30日に開催した定時社員総会につき報告しました。

「2012年の電子工業国内生産は11兆8,163億円、前年比10.0%減、2年連続のマイナスであった。足元も3月までは前年割れが続いており、新政権による施策の効果を注視している。輸出は8兆6,628億円、前年比4.2%減

であったが、輸入は8兆1,142億円、前年比4.3%増で2年ぶりのプラスとなった。JEITAの平成24年度取組みとして、税制改正では、R&D 税制やグリーン投資減税の拡充をはじめとする成果を上げた。新市場の創出についても、4K・8K（スーパーハイビジョン）やスマートテレビについて、経済産業省の委託により検討会を設置し政策提言を取りまとめる等、力を入れた。25年度は「国際競争力強化」と「新事業創出」を目標に、政府による成長戦略の具現化に向け取り組んで行きたい。定時社員総会では、上記事業報告・計画の審議に加え、平成25年度役員に佐々木則夫会長（（株）東芝 社長）、山本正巳 筆頭副会長（富士通（株）社長）以下の皆様を選任した。」

また、大塚昭徳 支部事務局長より支部の事業報告・事業計画につき説明を行いました。

「24年度は、近畿経済産業局等との連携により市場創出の取組みを進めると共に、わが国エレクトロニクス産業の今後の方向性につき、技術セミナー等を通じて情報発信した。機器・部品メーカー懇談会やフィリピンへのミッション派遣によりグローバルマーケットの把握に努める一方、業界の将来を担う人材の育成をはじめ、基盤強化の活動に力を注いだ。また、従来からの支部レポートに加え、業界関連情報をまとめ、月2回発信した。25年度はこれらの活動を継続しつつ、新しい手法を盛り込み深化させて行く。市場創出については、関西イノベーション国際戦略総合特区の取組み等、異分野の連携を視野に入れて進める。マーケットの把握では、市場の変化とそこから生まれる新たなビジネスの可能性に関する情報提供に力を注ぎたい。人材育成、環境、安全、調達、人事等、基盤強化の活動についても、進め方を工夫し充実させる。地域各機関や支部各委員会との“さらなる連携の強化”をキーワードに、会員の事業活動に貢献できる活動を進めて行きたい。」

最後に、高畠正明 近畿経済産業局地域経済部長、崎元利樹 NHK 大阪放送局長より祝辞をいただき、総会を終了しました。

第82回機器・部品メーカー懇談会

(6月12日 (水) 15~20時
ホテルグランヴィア大阪)



支部部品運営委員会の主催により開催しました。

最初に、古橋健士委員長（ホシデン（株）社長）

より挨拶を行いました。

「セットメーカー様のご理解により、毎回幹部の皆様にご参画いただき82回の歴史を築いて来ることができた。セットと部品両方で活発に意見・質問を交わす有意義な会として今後ともさらに盛り上げていきたいので引き続きよろしくお願ひ申し上げます。」

続いて、機器側より報告がありました。

①「薄型TVの今後の展望」パナソニック（株）：グローバルの需要動向について、台数は伸長するが単価下落で金額は伸びない。15年には総需要の半分をスマートTVが占めると見込まれ、情報端末としての役割が増して行く。音声操作、顔認識による個人別の画面設定、スマートフォン・タブレットとの連携、米国4大放送のネット配信等の「スマート化」と、4K OLEDの取組みについて紹介があった。

②「車の“つながる”化」富士通テン（株）：これまでは車載マルチメディア機器がクルマのICT化を牽引してきたが、今後は、スマートフォンの普及と通信インフラの拡大により、社会・環境・人とつながる車載システムに進化して行く。AV・ナビの情報端末化、車外との接続、ドライバーサポート、住宅・電

力網・クラウドと連携したエネルギーマネジメントの動きが説明された。

③「パソコン・タブレットの市場動向」パナソニック（株）：タブレットが急進しており、本年は台数でノートPCを上回る。Windows 8の発売によりPC・タブレット兼用タイプの製品が登場している。パナソニックのPC・タブレット事業はモバイルに特化し、顧客ニーズに最適の提案を行うと共に、軽量薄型・堅牢・長時間駆動の相反する要素技術を同時に追求している。

④「スマートコミュニティ最前線」三菱電機（株）：「スマートコミュニティ」とは、1. 災害時のエネルギー自立、2. 電源分散、3. 電力消費の低減、4. 供給側と需要側の協調、をICTで実現する取組みである。配電電圧の最適化、緊急時の自立需給、EMSによるエネルギー管理、デマンドレスポンスによる需要抑制等の取組みと、けいはんなや東北各地区におけるプロジェクトの状況が紹介された。

最後に部品側から報告を行いました。

「半導体・電子部品・センサー市場の動向とセンサーネットワークへの取組み」ローム（株）：世界の半導体・受動部品市場は昨年来持ち直している。12年の半導体市場は23兆円、本年3月にはリーマンショック後のピークを更新した。12~15年において年平均3.7%の成長が予測されている。12年の受動部品市場は17兆円、リーマン後のピークとはまだ少し開きがある。いずれにおいても日本市場は回復が遅れ気味である。その他、主要商品毎の長期トレンドと、ロームのセンサー事業に対する取組みが紹介された。

神戸大学における「JEITA 関西講座」

関西 IT・ものづくり技術委員会／産学連携分科会では、4月より神戸大学大学院工学研究科電気電子工学専攻（博士前期課程）にて、下記内容により JEITA 関西講座「企業における研究・開発プロセスの実際」を実施しました。毎回約60名が受講し、いずれの講義もたいへん好評をいただきました。

月	日	テーマ	担当
4	10	ガイダンス	—
	17	社会を支える防犯カメラの実際	TOA (株)
	24	新規事業創出	ニチコン (株)
5	8	バイオセンサの開発と商品化	パナソニック (株)
	22	船用衛星通信の技術動向について	古野電気 (株)
	29	DVD 機器の光ピックアップ開発 (機能の向上とコストダウンの両立)	三菱電機 (株)
6	12	半導体発光デバイスの開発	シャープ (株)
	19	電子デバイスの栄枯盛衰 (ジャイロセンサーの開発・量産を通して体験したこと)	(株) 村田製作所
	26	家庭用燃料電池の開発	パナソニック (株)
		以後、講師インタビュー	全社

JEITA REPORT vol.06



Activity Report